

1 目指す学校像

「HARD SPIRIT 貫徹精神」の下、幅広い知識と教養を身につけ、逞しく豊かな心身を培い、郷土や我が国さらには国際社会の発展に貢献する志を涵養し、国際人として大局的な視点に立って行動できる人間を育てる学校を目指す。

2 本年度の教育目標

- ①学びの習慣の確立と学力の向上
生きる力につながる確かな学力の定着を目指し、学びのプロセスとしての学習習慣の確立と共に学びの結果としての学力の向上を図る。
- ②特別活動と部活動の充実
逞しく豊かな心身と他者との協働を喜びとできる「睦み」の心の育成を目指し、社会性、協調性、主体性を育てる特別活動と部活動の充実を図る。
- ③キャリア教育と地域貢献の推進
社会の中で自己の在り方生き方を見つめ、社会に貢献する志の涵養を目指し、キャリア教育や道德教育を推進すると共に、生徒、保護者、地域社会に開かれ、地域社会に貢献する教育活動を推進する。
- ④英語運用力の向上と国際交流活動の推進
上記3点の育成を基盤としたその上に、国際人としての知性・感性を備え、大局的な視点に立ち、日本の内外の問題に対する正しい理解に基づいて行動できる人間、すなわちグローバルリーダーの育成を目指し、英語運用力の向上を図ると共に国際交流活動を推進する。

3 評 価

項 目	昨年度の課題	本年度の目標		目標達成のための手だて	中間期評価	学年末評価		外部評価	今後の課題
学びの習慣の 1 確立と学力の 向上	・家庭学習の習慣付け ・推薦入試と一般入試の 的確なさびわけ指導 ・一般入試に向けた効果 的な受験指導	1年	①家庭学習90時間/月 ②国・数・英3教科総合の平均偏差値50 以上 各教科の偏差値53以上 ③図書貸出数1000冊/年	①「進路実現ノート」を通して、個々の学 習を把握する。 ②予習・復習課題を精選し、確実な提出 を習慣づける。 ③図書オリエンテーションを実施すると共 に、生徒全員に貸し出しを行う。	①6月の家庭学習調査によると、平日の家庭 学習時間は平均1時間41分であり、休日は平 均2時間30分となっている。これから推測する と、月平均80時間弱の家庭学習時間となる。 引き続き、「進路実現ノート」を活用するととも に、6月調査の結果を生徒にフィードバックし て活用する。 ②7月の全国模試における国・数・英3教科総 合の平均偏差値は49.3であり、各教科の偏差 値は国語49.6、数学49.9、英語48.7となってい る。今後の対策として、週末課題の提出の徹 底を図るとともに、居残り指導の実施や応用 問題を盛り込んだ月例テストを実施する。 ③4月から7月末までの貸出数は累計で720 冊である。図書オリエンテーションの際に強制 的に貸し出したことが功を奏している。返却時 に再度借りる生徒もいる。1000冊も達成でき そうである。				
		2年	①家庭学習100時間/月 ②5教科総合の平均偏差値50以上 各教科の偏差値53以上 ③図書貸出数1000冊/年	①「進路実現ノート」を通して、個々の学 習を把握する。 ③生徒全員に貸し出しを行う。	①「授業第一」の取組は、定期考査の結果か ら浸透しつつあると考えられるが、6月の家庭 学習時間調査では、1日当たり平均1時間24 分であり、目標時間を大きく下回る結果となっ た。2学期以降は、進路面談を充実させるとと もに「進路実現ノート」を引き続き活用し啓発 に努める。 ②7月実施の全国模試の結果をみると、国・ 数・英3教科総合の平均偏差値は48.9であり、 国語50.4、数学50.1、英語47.1となっている。 改善策として、復習を中心とした週末課題の 実施や添削指導、月例テストに標準問題を盛 り込むようにする。 ③4月から7月末までの貸出数は累計で294 冊である。2学期以降、LHで図書室を使用す る際には積極的な貸し出し指導をしていく。				
		3年	①国公立大学合格者100名以上 ②図書貸出数1000冊/年	①「進路実現ノート」を利用し、目標達成 意識を向上させる。 ・個別試験対策時期の適正化を図る。 ・模試等の結果を分析協議し、事後の指 導に生かす。 ②受験指導の一環として読書を推奨す る。	①「進路実現ノート」に模試の一覧表を貼り、 模試成績の推移とセンター試験における目標 点との乖離を認識させ、モチベーションを高め るよう図っている。また、県体終了後から2次 試験対策を実施している。7月の記述模試の 結果は、5教科総合で平均偏差値50以上の 者は59名(22.9%)である。今後は、模試答案 の誤答分析等を含め個々の生徒に対する理 解を一層深める。 ②4月から7月末までの累計貸出数は117冊 である。3年生にしては例年に比して非常に 少ない。3年生でも図書オリエンテーションを LHIに組込む必要があるかもしれない。				

2	特別活動と部活動の充実	・部活動の充実と管理 ・高校生活支援プログラムの充実 ・健康を維持・増進するための取組の充実	1年	①皆勤 ②部活動加入率90%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④学校適応100% ⑤学校行事に積極的に参加する	①「1年皆勤賞」を設定し啓発する。 ②魅力ある部活動づくりを進める。 ③体育の授業を通して、取組む意識の向上を図るとともに自己の限界に挑戦させる。 ④高校生活適応支援プログラムの実施・「学校生活アンケート」の実施および対応。 ⑤各行事において、特別活動委員が中心になりホームでの積極的な参加を促す。	①一学期終了時の皆勤者は211名(75.4%)である。 ②部活動加入率は89.6%である。 ③8種目のうち、全国平均並みの種目は男子の「上体起こし」「反復横とび」「持久走」である。女子は、全種目にわたって全国平均を下回っており、とりわけ「持久走」「50m走」については大きく下回っている。 ④学校生活適応支援プログラムから、「楽しく過ごしたが、高校生活に対する不安も高まった」ものと推測される。来年度も引き続き、授業を入れながら2日間の日程で実施したい。生徒支援委員会の対象となった生徒は4名である。				
			2年	①皆勤 ②部活動加入率90%以上 ③体力運動能力テスト結果を全国平均並にする ④進路志望決定率100% ⑤学校行事の中心となって、各行事を充実した活動にする	①「学校生活アンケート」の実施および対応。 ②魅力ある部活動づくりを進める。 ③体育の授業を通して、取組む意識の向上を図るとともに自己の限界に挑戦させる。 ④進路検討会の実施(8・3月)。 ⑤各行事において、特別活動委員及び有志を参画させ企画・運営させる。 ・各行事(あけぼの祭・ホームマッチ・ユニセフ支援活動等)において、生徒会を中心に企画・運営・評価をさせる。次年度に引き継ぐ体制作りを行う。	①一学期終了時の皆勤者は174名(65.2%)である。 ②部活動加入率は83.3%である。 ③男女とも8種目全てにわたって全国平均値を下回っているが、「反復横とび」(男女)と「ハンドボール投げ」(女子)は全国平均値に近づいている。 ④節目毎に学年集会を実施し、学習意欲の向上を図っている。集会時には「学年集会だより」を配付し、生徒一人一人に明確な進路目標を持たせるように指導している。学年末には進路志望決定率100%を目指す。				
			3年	①皆勤 ②部活動成績上位入賞 3年間の活動 ③学校行事の中心となって、各行事を充実した活動にする	①朝食摂取率100%を実現するよう調査・指導する。 ・「学校生活アンケート」の実施および対応。 ②保健体育の授業を通して、心身のコンディションが整えられるよう体づくりを指導する。 ・年間・月間・週間の練習計画を立て、目標達成に向けて計画的な部活動が行えるようにする。 ③各行事において、特別活動委員を中心に参加させる。	①一学期終了時の皆勤者は139名(52.1%)である。また、朝食の摂取率は94.0%となっている。 ②部活動の成績は、全国大会にバドミントン部、新体操部が出場し、四国大会では弓道部が団体・個人とも優勝に輝いた。				
3	キャリア教育と地域連携の推進	・地域連携、地域貢献活動の推進 ・WALKプランの再考・充実	1年	①植栽活動や地域との連携活動への参加 ②学校美化への主体的な取組100% ③WALKプラン自己評価4.0以上 ④高大連携授業等への参加者増加	①植栽活動年間計画を作成し、連絡の早期化と積極的な参加を呼びかける。 ②生徒の暮らす地域の行事や一斉清掃等に積極的に参加するよう指導する。 ・日々の清掃活動において、生徒の役割を明確にし、主体性を持って取組ませる。 ③WALKプランによる学びを希望の進路と連動させる。 ④ホーム担任会を活用して連携授業の重要性を伝え、積極的に参加を呼びかける。	①植栽活動年間計画の策定については検討中である。第1回目の植栽活動には、多数の応募者があり人数調整をし、87名が参加している。 ③調べ学習は、進路意識の違いにより取組には多少の温度差があったが、積極的な生徒の存在が刺激になり、自己評価は「職業・大学調べ」が4.2、「職業懇談会」が4.5となっている。 ④夏休み中に、自分で大学を選んでオープンキャンパスに参加するという課題を設定した。9月の総合的な学習の時間で、オープンキャンパス体験レポートを発表させることで事後指導とする。高大連携授業等への参加者57名である。				
			2年	①植栽活動や地域との連携活動への積極的な参加 ②学校美化への積極的な取組100% ③WALKプラン自己評価4.0以上 ④高大連携授業等への参加者増加	①延べ150人以上の参加を目指し、植栽活動年間計画を作成し、連絡の早期化と積極的な参加を呼びかける。 ②日々の清掃活動において、生徒の役割を明確にし、主体性を持って取組ませる。 ・生徒の暮らす地域の行事や一斉清掃等に積極的に参加するよう指導する。 ③WALKプランによる学びを希望の進路実現と連動させる。 ④ホーム担任会を活用して連携授業の重要性を伝え、積極的に参加を呼びかける。	①第1回目の植栽活動には93名が参加している。また、西部中学校から40名の生徒と地域の方15名の参加を得た。 ②朝の時間帯や長期休暇時にロータリー周辺やトイレ等を自主的に清掃している生徒が増えている。 日々の清掃活動は概ねできている。 ③WALKプランについては、ホームルーム担任会でアイデアを出し合いながら、学年全体で取り組んでいる。生徒の自己評価は4.0である。 ④高大連携授業等への参加者は18名である。				
			3年	①社会貢献意識の明確化50%以上 ②学校美化への積極的な取組100% ③高大連携授業等への参加者増加	①将来の自己像を持って主体的に進路選択ができるよう指導する。 ②日々の清掃活動において、生徒の役割を明確にし、主体性を持って取組ませる。 ③ホーム担任会を活用して連携授業の重要性を伝え、積極的に参加を呼びかける。	①進路相談を通して、徐々にではあるが社会に対する自己の役割をイメージしながら進路選択をする生徒が見られてきた。 ③高大連携授業等への参加者は25名である。11月に行われる国際協力入門でも参加を啓発したい。				

4	英語運用力の向上と国際交流活動の推進	英語検定取得に向け、普通科生徒への取組強化 ・国際交流体験の情報発信の充実	1年	①英検取得目標 普通科準2級70%以上 英語科準2級100% 英語科2級取得20%以上 ②国際交流体験における主体的な情報発信	①英検合格につながる授業展開と扱う教材の精選を図る。 ・情報の周知徹底と受検奨励の強化を図る。 ・学年団と連携の充実を図る。 ②学校設定科目を通して大局的な視点が得られるよう指導する。 ・「こくさい交流ジャーナル」をタイムリーに発刊する(年2回)。 ・オーストラリア・イギリス語学研修旅行の報告会を帰国後1ヶ月以内に実施する。	①第一回英語検定の合格者は、2級英語科1名、準2級普通科3名・英語科8名である。今後も、週1回ペースで速読問題や長文問題に対応できる読解力を養成する指導を実施したい。 ②『こくさい交流ジャーナル』の10月発刊に向けて準備中である。				
			2年	①英検取得目標 普通科準2級100%、2級10%以上 英語科2級50%以上 ②国際交流体験における主体的な情報発信		①第一回英語検定の合格者は、2級英語科3名、準2級普通科3名・英語科6名である。今後も、授業や補習で英検問題に触れたり、学年会で英検に関する情報を共有すること等を継続して行いたい。 ②国際交流員を招聘しての特別授業「日本文化の発信」や留学生による日本体験のプレゼンテーションは一定の成果があった。他方、中学生体験入学の際に、オーストラリア語学研修旅行報告会を実施したが、計画面で課題が残った。				
			3年	①英検取得目標 普通科2級30%以上 英語科2級100%、準1級5名 ②国際交流体験における主体的な情報発信 ③英語ディベート全国大会出場		①第一回英語検定の合格者は、2級普通科12名・英語科10名である。取得状況は、普通科9.1%、英語科60.0%となっている。 ③PEでのディベートの授業を通じて4技能の向上を目指している。				
5	学習環境整備	南海地震に備える安全対策の推進 ・センター跡地の有効活用	①生徒の学習環境の整備・充実が常に図られている ②安心・安全な教育環境が整っている ③旧教育センター跡地の有効利用案の採択		①日常点検による修繕必要箇所の早期発見と対応を行う。 ・必要物品などの情報収集、整理と迅速な対応をする。 ②関係機関との連携協力によるスムーズな耐震工事の進捗を図る。 ・多額の予算が必要なものは、優先度を考慮した改修要望を出す。 ・防災用品の購入。 ③旧教育センター跡地の利用計画の練り直しと要望の継続を行う。	①修繕必要箇所の発見と対応は予算の許す限りできたが、定期巡回の体制作りが必要である。教職員からの通報で、広い範囲で迅速な対応ができた。 ②耐震工事は大きなトラブルなく進行している。今後も、工程と使用不可日の連絡を早期に周知できるよう、業者と連絡調整していきたい。 ③要望書を提出した。				
6	関係機関との連携・協力	・学校ホームページの認知度アップ ・学校発出文書の確実な送達	①情報発信の拡充 ②PTA総会への保護者参加率の向上 ③中学校の生徒・教員及び地域住民が西高のよさを知っている		①PTA広報部を活性化し、「西高だより」を更に充実させる。 ②学校HPへ日常の活動を掲載する。 ③学校行事の案内を、地域や中学校に向けて積極的に行う。	①学校HPで1年生の様子を定期的に掲示している。1学期末までに24回掲示した。 ②PTA総会等への保護者の出席率は47.0%である。参加者が増えるよう、内容や伝達方法の改善を図っていきたい。 ③55校の中学校から高校説明会の要請があった。また、中高連絡会への中学校からの参加は47校である。次年度の学校案内については、本校の強みを生かしながら作成したい。				